

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 陽北中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	172人
② 数学	173人
③ 英語	173人

5 留意事項

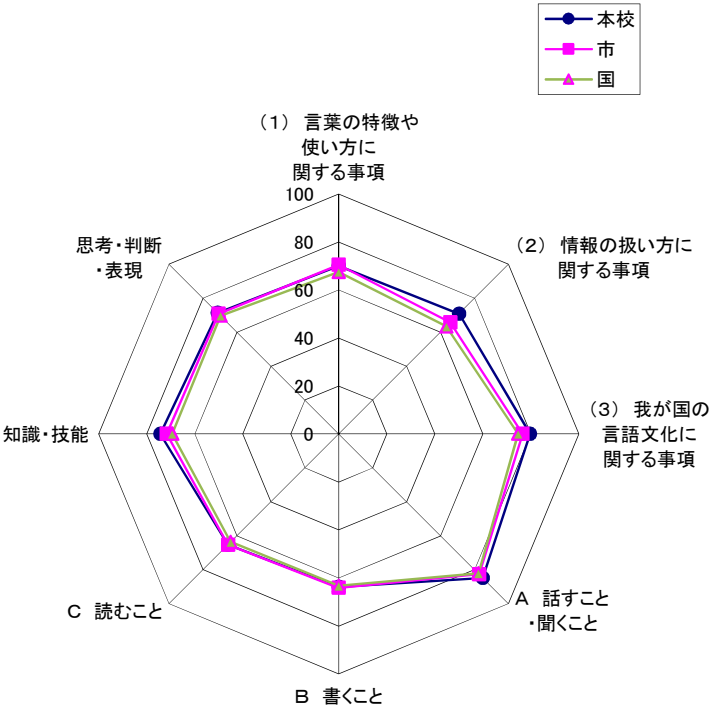
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽北中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	70.1	70.5	67.5
	(2) 情報の扱いに関する事項	70.9	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.7	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	84.9	82.6	82.2
	B 書くこと	63.7	64.1	63.2
	C 読むこと	65.3	65.3	63.7
観点	知識・技能	74.4	71.7	69.4
	思考・判断・表現	71.4	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

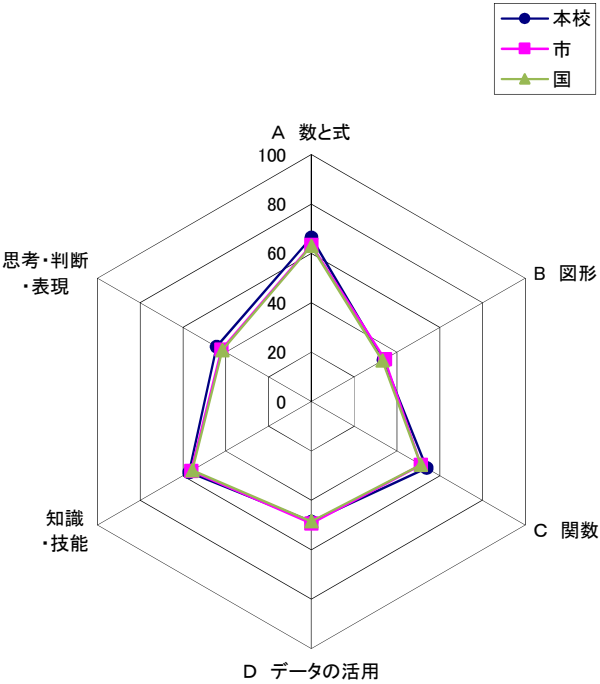
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○文章中の言葉の意味を解答する問題の正答率は93%と高く、県平均や全国平均を上回った。 ●文脈に即して漢字を正しく書く問題の正答率が県平均を下回った。	・言葉を単語のみで扱うのではなく、短文を作ったり、文章中での意味を確認したりすることで、語彙を増やせるようにする。
(2) 情報の扱いに関する事項	○意見と根拠、具体と抽象など、文章を読みその中に含まれる情報同士の関係を捉える問題の正答率が、県平均や全国平均を大きく上回った。	・接続詞や文末表現などに着目したり、段落ごとの話題をまとめたりする活動を通し、情報と情報の関係をより一層正確に理解できるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題や、古文と現代語訳を比較し対応する語句を解答する問題の正答率が県平均や全国平均を上回った。 ●読書に対する考えを述べる問題での無解答が一定数見られた。	・文法など基礎知識の確認とともに、詩や和歌における語句の用いられ方や効果について考える活動を取り入れる。 ・学習内容と関連する図書を読む機会を設ける。
A 話すこと・聞くこと	○目的や場面に応じて、質問内容を検討する問題の正答率は県平均や全国平均を上回った。	・話を聞いて質問したり、他者の話し方を評価したりする機会を設け、実生活に活かせるようにする。
B 書くこと	●記述式の問題における無解答率が県平均や全国平均と比べると高い。また、満たさなくてはならない複数の条件を見落としている解答も一定数見られた。	・話題や他者の考えに対する自分の考えをまとめる機会を積極的に設ける。
C 読むこと	○表現の効果や文章の要旨について解答する問題の正答率は県平均や全国平均を上回った。 ●文章の構成や展開、表現の効果について自らの言葉で説明する問題における無回答率が高かった。	・文章の特徴を説明するための語彙を増やし、様々な種類の文章における筆者の意図や工夫を記述する活動を取り入れる。

宇都宮市立陽北中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	66.4	63.4	63.0
	B 図形	33.7	34.3	33.2
	C 関数	53.8	51.2	51.2
	D データの活用	48.6	49.4	48.5
観点	知識・技能	57.2	56.2	55.7
	思考・判断・表現	44.4	42.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

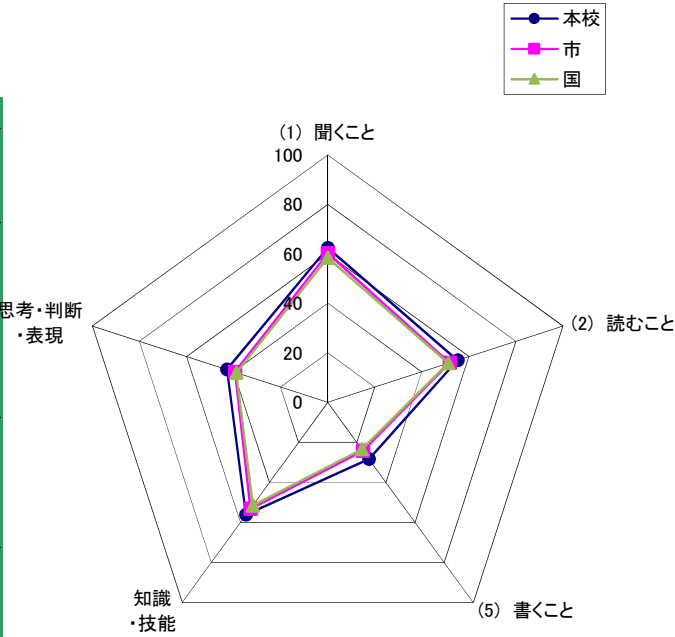
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○市、国の正答率より約3ポイント上回った。 ○はじめの数が11のとき、はじめの数にかけられる数が2、たす数が3のときの計算結果を求める問題では、正答率47.4ポイントと低かったが、市、国の正答率を約7ポイント上回った。無回答率も市、国よりも低かった。 ●自然数の意味を理解しているかどうかを見る問題では、正答率が43.9ポイントと低く、国の正答率よりも2.2ポイント下回った。	・自然数とは「正の整数」を意味するが、どうしても0も含んでしまう傾向がある。この領域では、文字を用いた式で説明するという問題がでてくる。そのときに、自然数の意味が理解できていないと誤った解答を誘発してしまう場合がある。「自然数は0を含まない正の整数」とあらためて定着させていきたい。
B 図形	○国の正答率より0.5ポイント上回った。 ●市の正答率より20.6ポイント下回った。 ●ある事象が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題では、正答率が30.1ポイントで市の正答率を1.0ポイント、国の正答率を2.0ポイント下回った。また、無回答率が21.4ポイントと高かった。	・図形の領域では証明の仕方や考え方が課題になっている。証明をする上で、定義や定理はとても重要になります。定義はルール、定理は定義から導かれるものなので、大事に学習していきたい。また、視覚的にも確認できるようPCなどの工夫を実践し、丁寧に扱いながら指導し定着を図っていきたい。
C 関数	○市、国の正答率より2.6ポイント上回った。 ○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかをみる問題では、正答率が62.4ポイントで、市・国の数値とともに約5ポイント上回った。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかをみる問題では、正答率が、国の割合を0.6ポイント下回った。	・関数領域の設問は、関数的な見方・考え方を活用する問題の正答率の低さが課題となっている。それを克服するため、現実的な事象の問題を「関数的な見方・考え方」を活用し解決するような指導を心がけていく。その際、「なぜ関数（比例・反比例・1次関数・2乗に比例する関数）とみなせたのか」、どのようにして問題を解決したのか、解決の手順を説明させることを大切にしていきたい。
D データの活用	○国の正答率より0.1ポイント上回った。 ●市の正答率より0.8ポイント下回った。 ○累積度数の意味を理解しているかどうかを読み取る問題では、正答率は、市、国ともに約13ポイント上回った。 ●四分位範囲の意味を理解しているかどうかを見る問題では、正答率が、市、国ともに約13ポイント下回った。	・ヒストグラムや箱ひげ図を用いて資料の傾向を読み取る力を育てるために、統計ソフトの効果的な活用とともに、実社会にあるデータや生徒が傾向を捉える必要性が実感できるような資料を題材として取り上げていく。また、それぞれのメリットやデメリットなども把握したうえで、どちらのグラフを使用すれば効果的にまとめられるかなど考える力も育てていきたい。

宇都宮市立陽北中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	(1) 聞くこと	62.4	60.2	58.4
	(2) 読むこと	55.2	51.8	51.2
	(3) 話すこと[やり取り]			
	(4) 話すこと[発表]			
	(5) 書くこと	28.3	24.2	23.4
観点	知識・技能	56.1	53.1	51.5
	思考・判断・表現	42.8	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 聞くこと	○情報を正確に聞き取る問題の正答率は概ね60%から80%と高い数値を示している。特に、会話文や説明文から必要な情報を聞き取る問題では県・全国平均から10ポイント超上回るなど顕著である。 ●聞き取った情報から場面設定や状況を推測したり整理したりすることがやや苦手な傾向が見られる。	・聞く活動のより一層の充実を図るため、ICTを活用して様々な教材の使用を検討・実施していく。 ・リスニング教材だけでなく、普段の授業内で教室英語使用率を高め、推測したり類推したりする力を伸ばす。
(2) 読むこと	○説明文や対話文等から必要な情報を正確に読み取る問題の正答率は県・全国平均から10ポイント以上上回っている。 ●文の全体像や概要を捉える力がやや不足しており、正答率が4割を割り込んだ設問があった。	・様々な文法・表現を読み取る活動を積み重ね、まとまりのある文章に対応できる基礎力を伸ばす。 ・教科書本文の要約やリテリング活動を取り入れる。
(3) 書くこと	●全体的に低い正答率を示した。特に自分の意見を述べたりその根拠を示したりする問題では正答率が1割を切っている。	・ICTを活用しながら英作文活動の充実を図る。 ・アウトプット活動である「書く・話す」を統合した授業を展開することで、生徒が自己表現・自己開示できる機会を創出していく。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問に回答した生徒の肯定割合は、93.7%で、県の平均より0.8%高い。今後も基本的な生活習慣の定着を図り、健康で安全な生活を送る態度を育てていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に回答した生徒の肯定割合は、98.2%で、県の平均より1.6%高い。今後もいじめに対する正しい認識力を育てていきたい。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という質問に回答した生徒の肯定割合は、70.6%で、県の平均より1.4%高い。今後も生徒が悩みができたときに学校内で先生や学校にいる大人にいつでも相談できる雰囲気を醸成していきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に回答した生徒の肯定割合は、82.6%で、県の平均より0.1%高い。今後も生徒たちが学校に行くのが楽しいと思うような学校づくりを教師や生徒で協力して作ってきたい。

○「友達関係に満足していますか」という質問に回答した生徒の肯定割合は、90.7%で、県の平均より0.8%高い。今後も友達関係が良好であるように、生徒とたくさん会話をもち、生徒間の関係性に何か良くない変化がないか、日ごろからアンテナを高くしていきたい。

○「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館(それぞれ電子図書館を含む)にどれくらいいきますか」という質問に回答した生徒の肯定割合は、43.3%で、県の平均より2.1%高い。今後も本をたくさん読む雰囲気づくりを心掛けていきたい。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に回答した生徒の肯定割合は、82.6%で、県の平均より3.2%高い。今後も総合的な学習の時間の生徒の活動の充実を図ってきたい。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問に回答した生徒の肯定割合は、78.1%で、県の平均より1.9%低い。成長期の睡眠の大切さをもう一度確認させたい。

●「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に回答した生徒の肯定割合は、77.5%で、県の平均より5.0%低い。自分のよさを見つけられる活動を考えて、自己肯定感が高くなるようにさせていきたい。

●「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に回答した生徒の肯定割合は、65.9%で、県の平均より4.1%低い。これから教育相談等を通して、進路を決めていく中で、将来の夢や目標について考える機会を増やしていきたい。

●「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という質問に回答した生徒の肯定割合は、77.5%で、県の平均より5.1%低い。これからも話し合い活動を多く取り入れ、話し合いの経験をたくさんさせることで自分の考えを深めたり、広げたりすることが少しずつでもできるようにさせたい。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に回答した生徒の肯定割合は、64.7%で、県の平均より7.6%低い。学習した内容で分かった点やよく分からなかった点を見直すことで、次にどのようなことに気をつけて学習すればいいかを考えさせる場面を増やしたい。

宇都宮市立陽北中学校 (第3学年)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学力向上を目指す学習指導の改善と生徒の家庭学習の充実	・学習活動の展開を工夫し、より高いレベルでの学習態度の育成を図る。宿題や課題の出し方を工夫したり、自主的に家庭学習に取り組む態度を強化する。	「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」という質問に回答した生徒で、2時間以上と答えた生徒の割合は39.9%で県の平均より6.5%高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語科における「言語・・・」「書くこと」や数学科の「図形」「データの活用」において、市の平均を下回っており、例年にはない傾向が見られた。	・国語科における言語活動の強化、特に書くことの指導強化。 ・数学科における図形問題やデータを活用する問題に対する能力の向上。	全教科を通して、単元等のふり返り活動において、「書くこと」を継続指導し、自分の考えを文章で表現する活動に積極的に取り組ませる。また、データ(資料)活用に関しては、数学科に限らず他の教科においても同様の意識をもって取り組ませたい。